

離陸待ちが続く

2014年4月11日(金)

第一生命経済研究所 経済調査部  
藤代 宏一  
TEL 03-5221-4523

15:19 現在

<主要株価指数>		
	終値	前日比
日経平均株価	13960.05	-340.07
N Y ダウ	16,170.22	-266.96
D A X (独)	9,454.54	-51.81
FTSE100 (英)	6,641.97	6.36
CAC40 (仏)	4,413.49	-29.19

<外国為替>※		
	円	円
ドル円	101.83	0.29
ユーロドル	1.3895	0.00

<長期金利>※		
	%	%
日本	0.610	0.00
米国	2.647	-0.04
英国	2.619	-0.07
ドイツ	1.520	-0.05
フランス	2.018	-0.06
イタリア	3.166	-0.04
スペイン	3.169	-0.04

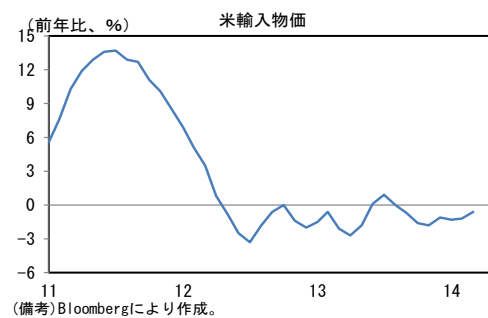
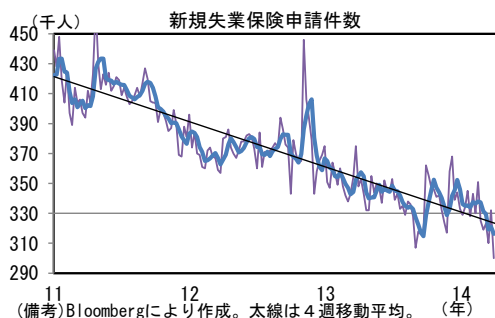
  

<商品>		
	ドル	ドル
N Y 原油	103.40	-0.20
N Y 金	1320.10	14.60

※は右上記載時刻における直近値。図中の点線は前日終値。  
(出所) Bloomberg

## 【海外株式市場・経済指標他】 ~sell Off~

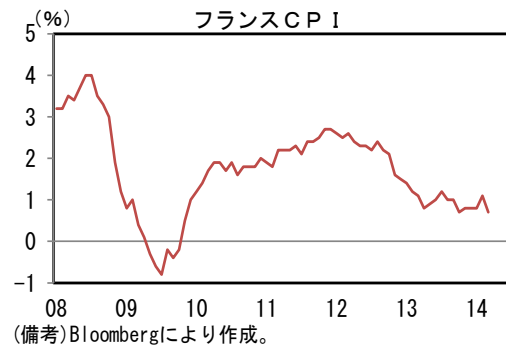
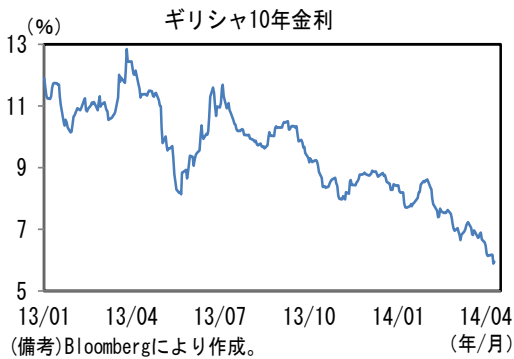
- ・ N Y ダウ平均株価は前日比▲266.96ドルの16170.22ドルで取引終了。ウクライナ情勢緊迫化などから売り優勢。
- ・ 新規失業保険申請件数は30.0万件と32.0万件と前週(33.2万件)から一段と減少して2007年5月以来の低水準に到達。4週移動平均でも31.63万件と、カリフォルニア州のシステムトラブルで実勢より低めの数値がでていた昨年9月水準を更新。労働市場の回復ペースが一段と加速していることを示唆した。
- ・ 3月輸入物価指数は前年比▲0.6%と前月(▲1.2%)から下落幅縮小。前月比では+0.6%と予想(+0.2%)を大幅に上振れた。品目別では食料品(+3.7%)の上昇が目立った。
- ・ B O Eは予想どおり、政策金利の据置き(0.5%)と資産購入枠(3750億ポンド)の維持を決定。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

**【外国為替相場・債券市場】～ギリシャ復活～**

- ・前日のG10通貨はJPYとCHFが強く、典型的なグローバルリスクオフ。USD/JPYは米国時間早朝に102を回復したものの、米株下落に伴い101前半に沈んだ。EUR/USDも米金利低下を受けて一時1.39にタッチするなどUSD売りが優勢。新興国通貨は強弱区々。11日の日本時間でUSD/JPYは101半ばで一進一退。
- ・米10年金利は▲4.2bpの2.647%。米指標に反応して一時は金利上昇となっていたものの、次第に金利は低下。30年債入札の通過もあってカーブは大きくブルフラットニング。欧州債市場は総じて堅調。経済指標ではフランスとイタリアの2月鉱工業生産指数がそれぞれ予想を下振れたほか、フランスの3月HICPも+0.7%と予想(+0.8%)に届かなかった。注目されたギリシャ5年債入札は旺盛な需要を集め、4年ぶりの復帰を無事に果たした。

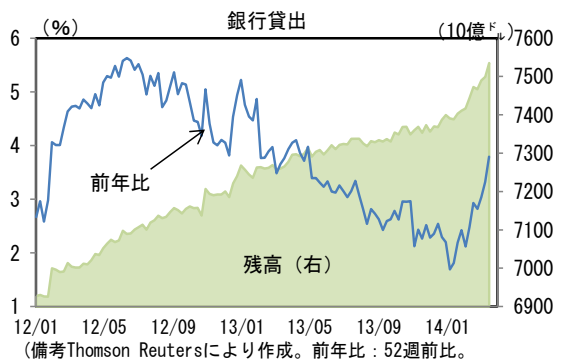


**【国内株式市場・経済指標他】～中国：終わらないデフレーション～**

- ・日経平均株価は前日比▲340.07円の13960.05円で取引終了。欧米株安を受けてギャップダウン。
- ・3月国内企業物価は前年比+1.7%と前月(+1.8%)から一段と鈍化。前年比でみた円安一巡から企業段階での物価上昇が一服した。CPIも同様、先行きは円安効果の一服が見込まれる。
- ・3月中国CPIは前年比+2.4%と前月(+2.0%)から加速。非食料品(+1.6%→+1.5%)の減速を食料品(+2.7%→+4.1%)の加速が補った。一方、PPIは前年比▲2.3%と前月(▲2.0%)から一段と下落。弱いPMI、輸出入の減少から示唆されるように需給バランスが崩れている可能性が高い。グローバルデフレーションの根源(或いは結果)となっている中国のデフレーションに変化の兆しはみられない。

**【注目点】～離陸待ちが続く～**

- ・目下のところ欧米株が急落し、日経平均が14000を割れ、USD/JPYが101半ばに沈むなどグローバルリスクオフが進行中。寒波から抜けた米指標の改善をカタリストに、強気相場の到来が期待されたが、3月雇用統計が市場予想に届かなかったことで、それに「待った」がかかった。3月に米指標の落ち込みを無視して駆け上がってきたこともあり、劇的な改善をみせなかった雇用統計に物足りなさを覚えたのだろう。
- ・そうした中、速報性に優れた幾つかのウイークリーデータの改善が注目される。上述した新規失業保険申請件数の著しい改善に加え、銀行貸出やMBA住宅ローン申請指数(新規購入)もこのところ持ち直しが鮮明だ。特に、銀行貸出は13年前半の伸びを回復しており、昨年5月以降の金利上昇を乗り越えた形となっている。それが設備投資の加速によるものか現時点では判断できないが、それでも前向きな資金需要が芽生え始めている可能性を語るには十分だ。市場の不安感をよそに悲観論に疑問を投げかけるデータは多い。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。